

ごあいさつ

皆さまには、平素より足利小山信用金庫に格別のご高配とお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

当金庫へのご理解を深めていただくために、本誌「足利小山信用金庫の現況2013」を発行いたしました。ご一読いただければ幸甚でございます。

足利小山信用金庫は新たに策定した中期経営計画(平成24年度~26年度)の初年度として、「課題解決型金融への取り組み等を通じ、収益基盤の強化を図る」、「確固たる経営体制の構築(経営資源の選択と集中)」、「独自性(信金らしさ)のさらなる発揮により、金庫の存在価値を高める」の3つを掲げ、期初より意欲的に取り組んでまいりました。

具体的な施策として、昨年10月に、「カーライフプラン」、「教育プラン」等の消費者ローンについて商品性の見直しを実施し、「カードローン」と共に積極的に推進いたしました。さらに、お客さまのニーズにお応えするため、融資商品ではフリーローン「いざっと」の取り扱いを開始し、預金商品では退職金専用定期「ゆとり定期預金」および年金受給者向け定期「年金ゴールド定期預金」の取扱期間を延長いたしました。保険商品では、終身保険「しんきんらいふ終身S(ふるはーとW)」、投資信託商品では、「しんきんアジア債券ファンド」、「しんきんアジアETF株式ファンド」の取り扱いを開始いたしました。

また、お客さまのニーズの多様化に対応し、より充実した金融サービスの提供ができるよう、一昨年の北支店に引き続き、9月に蕪川支店、11月に邑楽支店の2店舗を、預金・預かり資産に特化した機能特化店舗へと形態変更いたしました。

なお、昨年7月には、間々田地区の店舗効率化を図るため、東間々田出張所の窓口業務を廃止いたしました。同月新たに、小山駅構内に小山駅ビル出張所(現金自動預入支払機コーナー)を開設いたしました。

今後の経営環境を展望しますと、日本経済はデフレ脱却に向けた日銀の大胆な金融緩和策により、株高・円安等が大きく進展しており、大手輸出企業を中心に業績回復の期待が高まっていくものと予想されます。しかしながら、当金庫を取り巻く地域経済環境は、依然として厳しい状況にあり、資金需要も低迷していることから、金融機関間の金利競争がさらに激化しております。

当金庫はこうした状況に的確に対応するため、平成25年度は、①本業収益の回復、②金融円滑化法終了後における中小企業金融円滑化への適切な対応、③自己資本比率規制(バーゼルⅢ)への適切な対応、④信用リスク管理の強化、⑤内部管理態勢の強化、⑥人材の育成、⑦環境問題に関する行動計画の7つを経営課題に掲げ、創業以来の「相互扶助精神」に基づく経営を、「地域の発展なくして金庫の存在意義なし」との考えで、取り組んでまいり所存でございます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。



平成25年7月 理事長

富田隆